

HELLO NEWSPAPER

発行所：京都市伏見区桃山井伊

掃部東町16

HELLO NEWSPAPER

京都本社

この「HELLO NEWSPAPER」コースでは様々な体験と活動をしてきた。そのことを一部ではあるが紹介する。

本校は、「京都新聞」、「毎日新聞」、「産経新聞」、「読売新聞」、「朝日新聞」、「日本経済新聞」の六つの新聞社から毎日、新聞を提供して頂いている。これらの新聞は、生徒が手軽に読めるように二階職員室前に並べられている。六社の記事を読み、その内容を比べることができるので、新たな発見がある。また、社説の意見の違いなどについても知るることができる。

また活動の一環として、新聞の記事紹介をお昼休みにやっている。これにより、全校の皆さんにその日の一面のトップ記事や、話題の記事について紹介することができる。

また、夏休みには、新聞を切り抜いて「新聞スクラップ」をした。新聞スクラップをすることによって、最近の事件について知り、調べ、自分の考えを持つことができた。また一人ひとりの新聞スクラップを持ちよって、みんなで交流をした。

朝日新聞 京都工場見学

朝日新聞京都工場へ見学に行き、新聞が印刷される過程や紙面の秘密について知ることができた。また、見学した日が、福田首相が辞任を表明した時期であったことから、締め切り前に大きなニュースが入ってくると、一面が大きく入れ替わるといふことも学んだ。



【9月17日 朝日新聞京都工場】

大学生とのコラボレーション授業

中学生と大学生による小グループで話し合いながら、新聞についての理解を深めるといふ活動である。

【第1回】

1回目の授業では、新聞から「喜怒哀楽」にあたる記事を探すことをテーマに活動をした。

例えば、あるグループでは、「哀しみ」の記事としてベトナム戦争後、今なお続く枯葉剤の被害の影響について取り上げ、話し合った。また、他では、「怒り」の記事として、食品の安全問題について取り上げ、昨今多くなっている議論を交わした。

【第2回】

2回目の授業では、四社の「全国学力テスト」についての社説から、それぞれの新聞社の意見の違いを読み解いた。「全国学力テスト」の実施について、「毎日」・「朝日」は反対、「読売」・「産経」は賛成していることがわかった。子供の問題について、大人のみで議論がされている中、私たち中学生の立場から「結果の公表」や「テストの活用の仕方」などについて考え、話し合った。

【第3回】

3回目の授業では、「見出し」について考えた。同日の複数の新聞から同じ記事を探し、見出しの言葉の違いについて読み解いた。例えば、元厚生次官とその妻が殺害、また重傷を負った事件では、「テロ」と断定している新聞と、「テロか」という疑問の助詞をつけているもの、慎重に「襲撃」と表している新聞があった。これより、新聞社が事件をどのようにとらえているかがわかり、さまざまな言葉への意識が高まった。



【大学生とのコラボレーション】

グループ研究

毎年行っている活動の中にグループ研究がある。今年度は、7つの研究グループに分かれて研究した。

- A、政治面での社説の違いからわかる新聞社の意見
- B、海外の動きに対する社説・論調の違い
- C、時事・事件に対する各社説の論調の違い
- D、社会面の4コマ漫画について
- E、風刺の本心―政治面の風刺画について―
- F、メディアの公平性について
- G、歴史が求めた総理大臣の条件

これらの研究を行うことによって、新聞への関心が深まり、記事の内容を理解し、研究レポートとしてまとめる力がついた。

新聞記者の来校

今年度は、読売新聞京都支局から木須井麻子記者に本校にきていただいた。前半は新聞記者の一日の仕事についてエピソードを交えながらうかがい、後半は、記事の書き方について、実際にパソコンで入力しながら学習した。記者から直接アドバイスを受けながら書くことで多くの気づきを得ることができた。



【10月1日 記者からお話をうかがう】

「このコースでの学びと成果」

私たちは週2時間という限られた時間の中で、様々な人や考え方から教えを受け、それによって将来の「生き方」へとつながる4つの大きな学びを得ることができた。新聞を読み、時代を読み解く力「メディアリテラシー」・グループで互いに学び合う力「コラボレーションアビリティ」・自ら調べ、学びを深める力「リサーチアビリティ」・自分の意見を整理して、相手にわかりやすく発表する力「プレゼンテーションアビリティ」である。

また、これら以外にも自分の「視野を広げる」ということも学ぶことができた。個人はもちろん年齢によっても視点はまったく違い、そして新聞社によっても意見や論調は違う。自分の意見をもちつつ、他の意見にも目を向け、広い視野を持つことが大切だとわかった。

「発言力」や「対話力」・「気力は」・「HELLO NEWSPAPER」の活動の中で得た力である。これらは、社会の中で生きていくための基礎となる力だ。たくさんの人々と接していく中で、これらの力の重要さを再確認し、より確かなものにする事ができた。特に「気力」では、作業が思うように進まないときにもあきらめず、最後までやりぬく姿勢が身についた。そして同時に、完成したときの達成感も味わうことができた。

これらの学び、そして、HELLO NEWSPAPERの活動の中から得た力を、社会の中で生きていくこれからの発揮できたいいなと思う。

協力者

京都教育大学社会科の学生の皆さん

京都教育大学 平石隆敏先生

読売新聞社 木須井 麻子記者

本校 神崎先生

作成者：2年2組
2年2組